

算数担当が、算数を教えつつ、いろいろなことを考えてみました。

$\pi=3.141592653\dots$

No.13:「幸せな気持ち」について考えてみた

令和7年6月30日
墨田区立柳島小学校
校長 近藤 幸弘
柳島小学校算数担当

毎日の「幸せ」を大切にしたい

先日の学校公開では、多くの方にご来校・ご参観していただきました。誠にありがとうございました。さて、6/27(金)2校時、私は受付にいました。何人かの保護者の方から、「算数日より、楽しみにしています。」「うちの子、家でよく先生のことを話すんです。」「『ほら!』とテストを見せてくれます。」などのお言葉をいただきました。ありがとうございました。私も「幸せな気持ち」になることができました。

…と、ここで、理屈っぽい私は、この「幸せな気持ち」について考えてみました。

授業では、有名な言葉「説明して、やって見せて、やらせてみて、…」の通りに指導します。やらせた後、「持ってこさせて、一つ一つ確かめて…」と続きます。間違えていたらその原因を探し、「おいしい!(突破ファイル・内村光良さん風に)ここが違います。正しくはこうですね。」と指導します。正解していたら「正解!(「突破!」とは言いません)じゃあ、次はこれをやって。」と追加の問題を出したり、「困っている人を助けてあげてね。」と言ったりします。算数が苦手な児童は特に、〇がついた時「やったー!」と、実に嬉しそうな顔をします。そして、自分が教える立場になったことも嬉しく思っているようです。「幸せな気持ち」になっている瞬間です。

ここに重要なポイントがあると思っています。それは「幸せな気持ち」です。たとえ1題だけでも、教えてもらったとしても、アドバイスを基に自分で考えて正解を出すことができたということには変わりはない。それは「成功体験」です。算数が苦手な児童は算数での成功体験は多くないはず。ならば、ごくわずかでもその「成功体験」を積み重ね続けよう…一人一人の演習の取組を見て、私はきっとこんなことを考えているんだろうなあと感じます。その「成功体験=幸せな気持ち」を毎日毎日毎日…少しずつ積み重ねていくことは、やがて「揺るぎない自己肯定感」へとつながっていくのではないかな…こんな風に考え、日々指導しています。

とはいっても、いつも調子よくできるわけではありません。「どよ〜ん」と重苦しい感じ(「よくわからなかった…」という雰囲気)のまま終わることもあります…

「逆数の定義」「分数のわり算」を用いて「 $\div 0$ をしてはいけない理由」を説明する

- 0の逆数を x と仮においてみる
- すると、逆数の定義より、 $0 \times x = 1$ となるが、そのような x は存在しない。
- このことから、「わり算はわる数の逆数をかける」ということが成り立たない。
- よって $\div 0$ をしてはいけないということになる。

あまり上手な証明ではありませんが、だいたいこんな感じでまとめました。